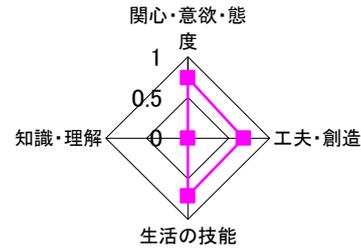


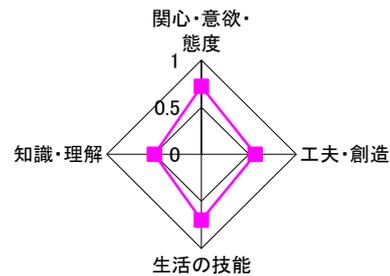
**内容別・観点別の分析 (様式2)**

1年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	74%
工夫・創造	68%
生活の技能	71%
知識・理解	評価資料不足



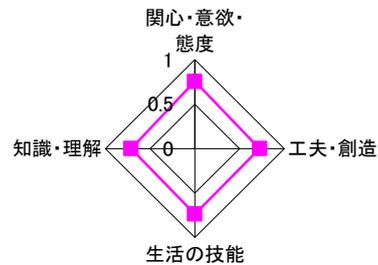
定期考査及び7月までの指導状況の分析

2年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	72%
工夫・創造	57%
生活の技能	70%
知識・理解	50%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

3年	観点別平均正答率
関心・意欲・態度	76%
工夫・創造	72%
生活の技能	74%
知識・理解	71%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

**指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画 (様式3)**

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心・意欲・態度については比較的達成率が高かったが、より達成率を高められるように、生徒の実態や興味に即した課題を考えていく。</li> <li>技能についてはそれなりに出来ている生徒が多かったが、苦手な生徒も何人か見受けられるので、補充的な指導をしていく必要がある。</li> <li>知識・理解の達成率が低かったので、高められるような指導方法の工夫をしていく。</li> <li>学年によって生徒一人一人の発想や工夫を出せる場面が少ない教材があったので、独自のアイデアを生かせるための工夫をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材についている設計図にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。</li> <li>作業が苦手な生徒については、授業内外で個別に指導をしていく。</li> <li>知識・理解の達成率を高めるために、毎回の授業のなかでの説明だけでなく、理解できていない生徒のために放課後に補習を行う。</li> <li>生徒の意見を参考にしながら教材を選び、飽きることのないように作業ごとの目標を決めて作品作りを進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業の遅い生徒については、すべての作業を単独でやるのではなく、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒にやるようにする。また、必要があれば放課後などに作業の時間を確保する。</li> <li>作業が早く進んでしまった生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めたり、作業の遅い生徒の補助をすることで復習ができるようにする。</li> <li>知識・理解の不足している生徒のために、定期考査前の放課後などに質問の時間を作り理解を高める。</li> </ul>
2年			
3年			

1～3学年、同様に考えられる。